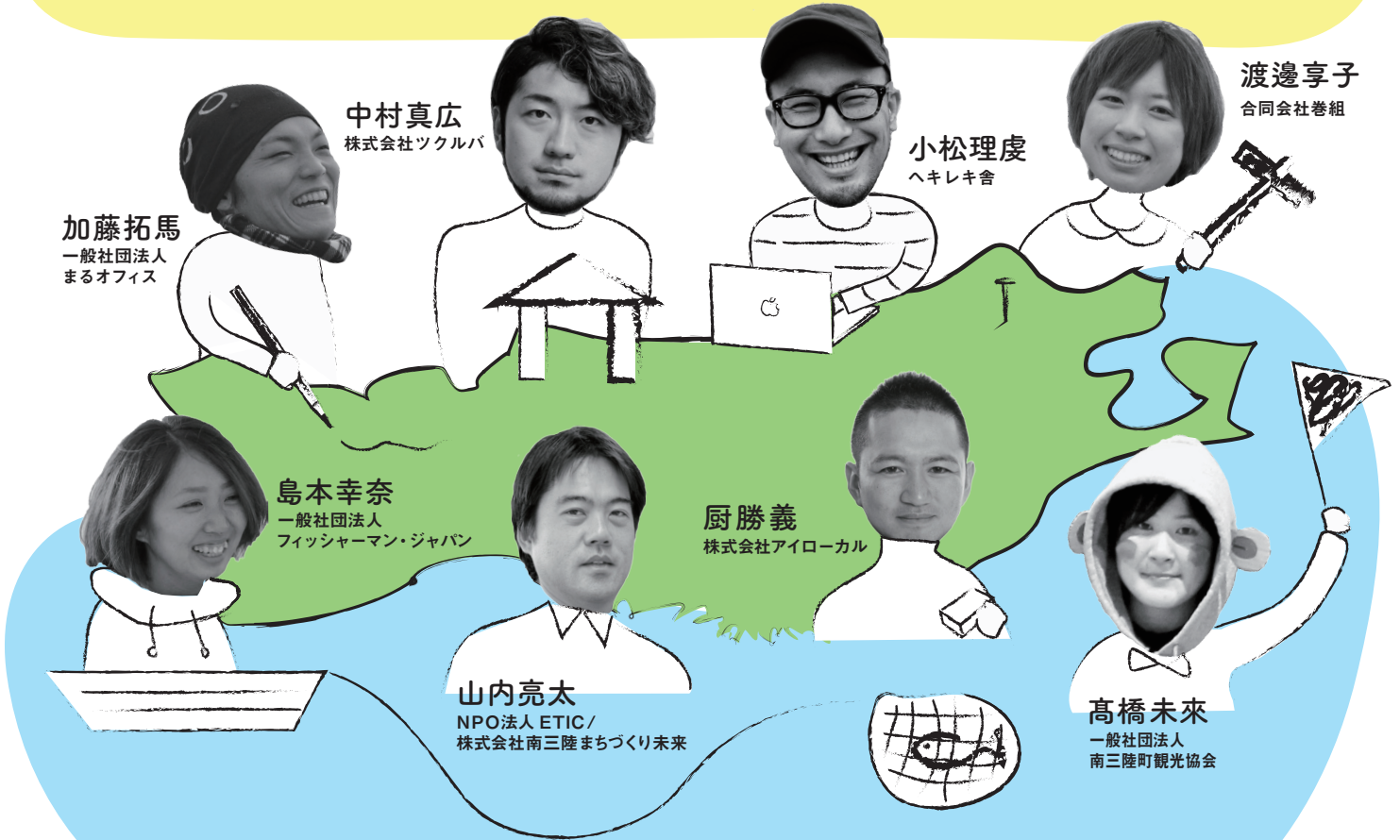


移住者公開座談会

被災地でみつけたものとかれからのこと 移住はゴールではなくスタートだった件



今回の座談会ではそんな移住者の方の活動を知っていただき、彼らの活動と共感する動き、彼ら同士でも、何かが起きるきっかけになってもうえれば、大変うれい

です。
だから、ときに不器用だったり、遠回りに見えたりすることもありますが、その分強い熱を感じるのだと思います。被災地は住居や生業の面で他の地方と比べて移住者にとっては厳しい状況にあります。でも、地域に寄り添うという姿勢は、一時的なブームに流されることなく地道に地域を作り上げていくための最短距離だと思います。

全国的に地方移住の機運が盛り上がっています。けれども、被災地の移住者は田舎暮らしや自己実現といった全国の地方で語られている文脈とは少し違う感じがします。それはとことん地域にいるひと、文化・伝統に寄り添って、地域のこれからのを考えているという点だと思います。

震災からまもなく五年、被災地支援をされていた方がそのまま被災地に移住したという話をよく耳にします。
気になってお話を伺ってみると、地域の文化・伝統、そして何よりも人に魅力を感じ、地域をよりよくしていきたいという熱い思いが伝わってきました。

2016/2/11(木)

13:40-16:30

仙台サンプラザ ホテル 3F 宮城野
(宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1)

入場無料
事前申込み不要
※入場の際に
お名前を頂戴します

主催 「新しい東北」官民連携推進協議会

お問い合わせ 復興庁宮城復興局 担当: 青砥 022-266-2250

Guest 講演あり



中村真広

株式会社ツクルバ CCO



1984年生まれ。東京工業大学大学院建築学専攻修了。不動産ディベロッパー、展示デザイン業界を経て、2011年、実空間と情報空間を横断した場づくりを実践する、場の発明カンパニー「株式会社ツクルバ」を共同創業。建築・不動産・テクノロジーを掛け合わせた事業を展開している。2015年4月から、建築とその周辺産業の発展に寄与すべく、一般社団法人HEAD 研究会の理事に就任。

へキレキ舎

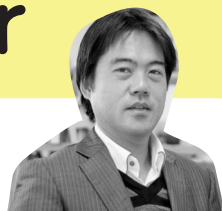
小松理虔

へキレキ舎

1979年福島県いわき市生まれ。福島テレビ報道部記者を経て上海へ移住し、日本語情報誌の編集・ライターとして活動。2009年に帰国後、木材商社、蒲鉾メーカーなどで広報職を歴任し、2015年に中小企業や生産者の広報PRを支援する「へキレキ舎」を立ち上げ独立。本業の傍ら、オルタナティブスペースや福島第一原発沖海洋調査チームの運営など、地域に根ざしたさまざまな企画・情報発信に携わる。



Moderator



(株)南三陸まちづくり未来
MINAMISANRIKU TOWN FUTURE

山内亮太

NPO 法人 ETIC/ 株式会社南三陸まちづくり未来

1999年ソニー株式会社入社、以降、テレビの商品企画とマーケティングに10年間従事。2009年11月よりNPO 法人 ETIC に参画。社会起業家の潜在層の発掘、教育に関わる事業の立ち上げを行い、震災後の2011年6月より右腕派遣プログラムのコーディネーター(南三陸担当)として4年間継続して関わってきた。2015年7月より南三陸観光協会、まちづくり未来に所属し、これからの南三陸のまちづくり機能の構築に従事。

高橋未来

一般社団法人南三陸町観光協会



1987年東京都府中市出身。鳥取環境大学卒業。建築設計事務所(大阪)勤務時代に、東日本大震災発生。現場での実状に触れショックを受けたボランティア活動をきっかけに、2012年10月より、縁あって出逢った南三陸町観光協会、総務省復興応援隊制度を利用して活動開始。「交流事業の拡大」をテーマに、観光や町に関する問い合わせへの対応、防災学習プログラムの企画・運営、民泊の推進・整備事業を主に担当している。プライベートでは昨春より藍の事業も開始。



厨勝義

株式会社アイローカル 代表取締役

福岡県出身。2011年ボランティアとして南三陸町に入り、そのまま移住。当地にて、起業・創業支援を2年間行う。その後、自身も南三陸石けん工房(株)アイローカル)を創業。女川町に店舗を開設、地産の材料で手作り石けんを製造。



渡邊享子

合同会社巻組 代表社員



埼玉県出身。宮城県石巻市で、建築・不動産・起業支援を通じて地域にインパクトのある人材の移住促進や育成を行っている。移住者が地域に根づくコミュニティをつくるシェアハウスの運営、若者たちが自分の生業をつくっていくことを支援するため「街の事務局」事業、若手の起業志望者と伴奏してくれる地域の企業をつなげるコミュニケーションの場づくり等、ソフトとハードを一体とした若者がチャレンジできる環境づくりを行っている。

加藤拓馬

一般社団法人まるオフィス

代表理事



1988年生まれ、兵庫県姫路市出身。幼少期に阪神・淡路大震災を経験。早稲田大学進学後、中国広東省のハンセン病快復村でワークキャンプ活動に参加。2011年春、卒業と同時に宮城県気仙沼市唐桑地域に移住、震災復興復興活動に従事。2012年に地域のわかものたちとまちづくりサークル「からくわ丸」を、2015年「一般社団法人まるオフィス」を立ち上げ、気仙沼のまちづくり事業に取り組む。代表理事。気仙沼市地域支援員を兼務。

島本幸奈

一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン
マネージャー



千葉県君津市生まれ。震災がなければ、聞いたことも来こともなかったら宮城県石巻市での移住生活も5年目。漁業をカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」を目指す、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンに立ち上げから関わり、海と共に生きる男達の中で紅一点、情報発信や個人向け販売、交流イベント、担い手育成事業などに携わり水産業の魅力を全国に発信している。自分が感じた漁師たちのカッコよさと彼らのつくる海産物の美味しさに感動を、ひとりでも多くの人に届けるために日々奮闘中。



会場の皆さん

当日は会場の皆さんのご意見とご協力で、新しいアイデアが生まれます。一緒にこんなことやりませんか?があれば大歓迎です!